



# 通信

HP 学校だより  
R4. 11. 22  
NO. 29  
文責 伊藤美佳



## 花いっぱいになあれ

園芸委員会が花壇デザインコンクールを行い、6年2組 家治川旺右さんの作品（150がデザインの中に入っている）と1年3組 小野立理さんの作品（☆がデザインされている）が選ばれました。デザインをもとにビオラとスノーポールを園芸委員会で植えました。春になる頃には、2人がデザインしたように、美しい色の花でいっぱいの花壇になることでしょう。今から楽しみです。校舎前にはパンジーが植えられています。冬の寒い時期でも花を咲かせる花たちを見ていると、元気をもらえます。豊坂っ子もそんな花を見ながら、寒さに負けずマラソン大会に向けてチャレンジタイムをがんばっています。

1年生は、卒業式、そして来年度の入学式を花いっぱいに行おうとビオラとチューリップで一人一鉢を始めました。初めてポットからビオラを取り出して植えるという体験もできました。1年生の子どもたちが、ビオラとともにチューリップが咲き、長く花を楽しめるように水やりをしてくれると思います。



旺右さんの作品 150わかりますか



立理さんの作品 ☆がわかりますか

## 地域から学ぶ

今年度、豊坂小学校創立150周年記念ということで、多くの行事を開催してきました。150年という長きに渡って、地域の学校としての役目を果たしてきた豊坂小学校の原点は「六栗郷学校」です。6年生が社会科で、六栗郷学校を始めた志賀喜代三郎さんのことを調べ、劇にしてとよさかつ子 Day で発表したのご承知の方も多いかと思います。

先日、志賀喜代三郎さんの子孫の方が学校におみえになり、子どもたちが六栗郷学校跡地を訪れ、喜代三郎さんのことを勉強しに来たことや、思いを考えたことに対する感謝の気持ちを伝えてくださいました。地域を知ることにより地域が好きになる、地域への思いが強くなることは、コロナ禍で人間関係が希薄になりがちな現在の状況では、とても大切なことだと思います。学区の皆さんが、「おらが学校」と感じ、豊坂の子どもたちを大切にしてくださること、本当にありがたいことです。きっと、喜代三郎さんも強い思いで、郷学校を運営されたのではないかと想像します。「地域のために」そんな思いをもった豊坂っ子が増えてくれることを期待します。